

■今和次郎 民家こそ建築の原点と近代建築や都市計画を批判，現代風俗を研究する考現学など，建築外思考の生涯。

こんわじろう

初の対等条約1888＝ 青森県弘前市百石町で，代々津軽藩医を務めた家系の医師今成男の次男に生まれる。母はきよ。

帝国憲法発布1889＝ 1歳：

日清戦争始・1894＝ 6歳：

八幡製鉄始・1897＝ 9歳：

日露戦争終・1905＝17歳：

満鉄発足・1906＝18歳：弘前市立東奥義塾中学校を卒業。(患者遺族に逆恨みされ)一家で上京し，四谷に居住，父が医院を開業。

韓国反日暴動1907＝19歳：東京美術学校図按科に入学し，岡倉天心が最も重視したという学科で，デザインを学ぶ。

この間，文学運動グループに参加して，{白樺派}に触れ，新興演劇の舞台や衣裳デザインに参加，父が死去。一家はおそらく叔父で病理学者の今裕に支えられ，そのついで，解剖医の作岡アルバイト，初作品で，ドローイング思考の原点となる卒業制作「装飾図案十八」は，科の方針への反抗と見なされるも，岩村透の支持で合格し，卒業。岡田信一郎の推薦で，早稲田大学建築学科教授佐藤功一の助手となり，その影響を受ける一方，東京帝大卒の教授らのなかで，傍流に置かれながらも，多方面に活動して行く。

第一次大戦始1914＝26歳：

21ヶ条要求・1915＝27歳：講師から，助教授を経て，

ロシア革命・1917＝29歳：佐藤が柳田國男と創設した古民家保存の{白茅会}に参加し埼玉県で調査。***自らの考え方のもととなる「都市改造の根本義」著し，以降，建築学会で，日本の近代建築や都市計画のあり方に異を唱えて行く。**

本格政党内閣1918＝30歳：「都市計画の心理的基礎」。「(白茅会)民家図集第一輯埼玉県」を発刊。柳田の{郷土会}と合同の「本格的民俗学調査とされる内郷村調査に参加，学問的対象とされない民家こそ建築の原点」という認識を高める。

ベル仁条約・1919＝31歳：母校の図按科講師に就任すると，既往の方針に対抗して，現代生活に即した教育を行う。「農商務省農政課長石黒忠篤から全国の農村住宅の視察を委嘱され，以後，住宅改善の調査研究啓蒙活動に携わって行く。

大暴落・・・1920＝32歳：

原敬首相暗殺1921＝33歳：農商務省から開墾地移住奨励に関する協力の委嘱。

水平社結成・1922＝34歳：古典的著作「日本の民家」出版。秩父の民家調査。朝鮮総督府委嘱で朝鮮の集落・民具等を調査。

関東大震災・1923＝35歳：「朝鮮の民家」発表。「関東大震災後，人々を元気づけるとともに，建築始源論具体化すべく，吉田謙吉らと{バック装飾社}設立し，次々施工。

護憲三派圧勝1924＝36歳：「朝鮮部落調査特別報告第一冊民家」を朝鮮総督府から刊行。生活改善同盟会調査委員。

治安維持法・1925＝37歳：分離派との論争後は建築論壇から退場，以後は傍観者の立場をとる。***震災後の人々の生活の劇的変化に気づき，まず吉田謙吉と東京銀座で{銀座街風俗}を記録し，{婦人公論}に掲載，初の考現学調査となる。**

金融恐慌・・・1927＝39歳：日本女子大学講師。「民俗と建築」加えた「(増補版)日本の民家」出版。論文「建築学批判」。「紀伊国屋書店開店記念」しらべもの(考現学)展覧会開催し，評判になる。

共産党事件・1928＝40歳：

世界恐慌・・・1929＝41歳：都下北多摩郡保谷町に住居を新築転居。「新版大東京案内」を出版。

海軍軍縮条約1930＝42歳：早稲田大学の命で，欧米各国に視察出張し，

満州事変・・・1931＝43歳：帰国。「吉田謙吉と共編で「モデルノロヂオ(考現学)」を出版。

五一五事件・1932＝44歳：続いて「生活学を提唱し，現代風俗研究する{流行研究会}を設立。

国際連盟脱退1933＝45歳：

帝人疑獄事件1934＝46歳：自宅に強盗。家庭科学研究所研究委員。前年東北地方を襲った大災害と凶作対策で設立された積雪地方農村経済調査所委託で，農家及び共同作業所の研究開始，農林省委嘱で東北地方農村恩賜郷倉調査など，「東北地方に集中，

二二六事件・1936＝48歳：

同瀾会調査委員会委員として，東北6県の農村住宅素人設計懸賞応募案の審査や農山漁村住宅の改善・標準住宅設計などを担当。東北更新会指導委員として東北各地で巡回指導。「石黒忠篤・藤島亥治郎らと{民家研究会}を設立し，会誌{民家}を発行。中谷宇吉郎らと{雪の会}をつくり，雪と雪害防止の研究を開始。

日中戦争始・1937＝49歳：積雪地方農村経済調査所の委託で，雪害防止試験家屋(雪質研究所)を設計。

健保+総動員1938＝50歳：再び，同瀾会調査委員会委員として東北地方漁村住宅素人設計懸賞応募案の審査，住宅の改善調査研究。

第二次大戦始1939＝51歳：

日米開戦・・・1941＝53歳：「雪の会」を発展させた{日本雪氷協会}の設立に参加。

「草屋根」「関東・河岸の宿舟」出版。弟子の竹内芳太郎と***東北地方調査の報告書をまとめるとともに，東宝文化映画「農村住宅改善」を監修・出演。国民生活科学化協会理事となり，国民標準住宅計画に取組む。**

・・・1942＝54歳：

創価学会検挙1943＝55歳：「改稿日本の民家」を出版。

年金+総武装1944＝56歳：日本製鉄株式会社委嘱で北海道・朝鮮の労働者住宅の調査研究。

敗戦・・・1945＝57歳：敗戦で，住宅改善計画終わる。「住生活」を出版。

新憲法公布・1946＝58歳：早稲田大学工芸美術研究所付属技術員養成所長。「服装研究」出版。

新憲法施行・1947＝59歳：「工芸家の社会性」発表。「働く人の家」「建築スタイルブック～復興新住宅」を出版。

極東裁判決・1948＝60歳：「家政のあり方」を出版。

三大事件・・・1949＝61歳：大日本女子社会教育会理事，同会家庭科学研究所長。「女性服装史」「建築の生活学アプローチ」を出版。

朝鮮戦争始・1950＝62歳：被服文化協会理事長。文化女子短期大学講師。労働省中央婦人問題会議委員。「家政学のために」を出版。「農村建築研究会」が発足し，初代表に就任。

独立回復・・・1951＝63歳：

「家政読本」「増補住生活」を出版。

メテ-事件・1952＝64歳：「造形感情」を出版。

テレビ放送始・1953＝65歳：農林省生活改善専門技術員資格試験審査員。ノートに「日常生活の器としての建築の理論化追求」記し，

自衛隊発足・1954＝66歳：「儀礼と民家の間取り」加え「増補日本の民家」を出版。厚生省公衆衛生院や学習院女子短期大学講師。

55年体制始・1955＝67歳：地方史研究所の出雲・隠岐総合調査に参加。農山漁村文化協会理事。「新書版「今和次郎著作集」続々刊行。

国連加盟・・・1956＝68歳：地方史研究所の高千穂・阿蘇総合調査に参加。日本青年団協議会専門委員。新生活運動協会講師。

インストラメン・1958＝70歳：全日本建築士会初代会長。

美智子妃・1959＝71歳：***47年勤めた早稲田大学を定年退職し，名誉教授。**

安保闘争・・・1960＝72歳：農山漁家生活改善研究監視理事。

タイタイ病始・1961＝73歳：工学院大学講師。

全国総合計画1962＝74歳：日本ユニホームセンター会長。

TV宇宙中継始1963＝75歳：建設省住宅対策審議会専門委員。

大学紛争始・1965＝77歳：勲四等瑞宝章受章。

いぎなき景気1966＝78歳：日本建築学会名誉会員。妻が死去。

美濃部都知事1967＝79歳：「ジャンパーを着て40年」出版するなど，生涯服装に関心持ち続け，「開襟シャツ」を考案したといわれる。

全共闘・・・1969＝81歳：

トクショク・・・1971＝83歳：翌年にかけて「考現学今和次郎集1～9」を刊行。「日本建築学会大賞受賞。

日中国交回復1972＝84歳：「日本生活学会初代会長」となるが，

石油ショック1973＝85歳：心臓麻痺で没した。

黒石いずみ「建築外」の思考・今和次郎論，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，インターネット